

平成 28 年度

# 第 3 期中期計画 評価報告書

社会福祉法人島根県社会福祉協議会

人・そだて 人・ともに 人・くらす わが島根づくり

《使命》

人・そだて 人・ともに 人・くらす わが島根<sup>まち</sup>づくり

－説明－

- 「人」「人」「人」・・・一人ひとりの尊厳を重んじる姿勢を表現
- 「人・そだて」・・・福祉に関わる人材・団体の育成や、地域における子育て支援などの人材育成のイメージを表現
- 「人・ともに」・・・住民同士のつながり(共助)、住民と施設・団体、団体同士のつながり(協働)など人に関わるネットワークのイメージを表現
- 「人・くらす」・・・人と人が支え合いながら地域で安心して暮らし続ける地域福祉のイメージを表現
- 「わが」・・・・・・・・地域への愛着を表す
- 「島根(まち)」・・・「島根」をあえて「まち」と呼ぶ。県社協のフィールドは県全体であり、県全体をひとつの「まち」と捉える。常に県全体を見渡した視野の広い活動を行うことを表す
- 「づくり」・・・・・・・・島根の福祉に必要なものをつくりだしていく、そして地域に普及・定着していく創造的・先導的な姿勢を表す

《経営理念》

- ・ 私たちは、一人ひとりの尊厳が重んじられ、だれもが互いに支え合っ  
て心豊かに暮らすことのできる島根<sup>まち</sup>づくりに貢献します。
- ・ 私たちは、県民主体・会員主体を活動の基本におき、幅広い分野・  
団体との連携・協働を進めます。
- ・ 私たちは、常に豊かな想像力と自主性をもって先駆的事業の開発  
に挑戦します。
- ・ 私たちは、社会環境の変化と埋もれたニーズを敏感に捉え、広く関  
係者の英知と行動力を結集し、共に提言活動を行います。
- ・ 私たちは、絶えず本会経営基盤の強化・刷新に取り組みます。
- ・ 私たちは、本会が地域福祉推進の中核団体として信頼・満足される  
よう、日々自らの人格を磨くとともに、専門性と実践力を高めます。

島根県社会福祉協議会では、本会の「使命」と「経営理念」を上記のとおり確認し、  
つぎのようなシンボルロゴマークもつくりました(2009年5月)

人・そだて 人・ともに 人・くらす わが島根<sup>まち</sup>づくり

## 平成28年度第3期中期計画の評価にあたって（総括）

平成29年5月12日、中期計画評価委員会は、「第3期中期計画」の内部評価書の検討を行った。第3期中期計画は、平成27年から29年度までの3か年を計画期間としている。今回の評価委員会に委任されたのは、平成28年度の島根県社会福祉協議会の活動について、検討を行うことである。

今年度の委員会でなされた議論を踏まえつつ、平成28年度の社会福祉をめぐる状況と島根県社会福祉協議会の活動について、以下で総括したい。

一つめは、社会福祉法人の地域貢献についてである。社会福祉法の改正に伴い、社会福祉法人には地域公益活動の努力義務が課されるようになった。しかし、多くの社会福祉法人は、今後どのような活動を行うのかについて模索しているように思われる。そこで、市町村社会福祉協議会の役割が重要となる。市町村社協の役割としては、社会福祉法人のネットワーク形成、地域課題と解決方法の検討、といったことがあげられる。そうしたことを通じて、地域社会と社会福祉法人とを結びつけていくことが、社協には期待される。また、こうした取り組みが、社会福祉法人だけにとどまらず、子育て支援事業等と連携していくことも委員会で提言された。

二つめには、生活困窮者支援をめぐる問題である。平成28年度は、生活困窮者自立支援制度施行2年目の年であった。この取り組みにおいては、従来の地域福祉とは異なった（もしくはその延長上の）取り組みが求められる。たとえば、いま現在において生活困窮にある人にどう即応するか、である。これについて、県社協（とモデル市町村社協）では現物給付機能を持った相談体制づくりを試行したり、住宅確保支援事業を行ったりした。ただ、自立支援事業の相談窓口を訪れる利用者の状況は、当初の予想よりも厳しいものがある。長期間の引きこもりで就労が難しい人、障害や累犯により住宅が確保できない人などである。こうした人々を支援するための制度構築は今後の課題である。

三つめは、福祉人材の確保についてである。平成28年度の取り組みとしては、研修体系の再編と充実、離職者対策などが特筆できる。福祉人材確保の困難性は、複数の社会状況により規定されている。そのため解決策も一つではなく、働く人を支える多様な事業が必要となる。今後も、福祉の仕事の魅力を多くの人に知ってもらうことができる事業展開を期待したい。

平成29年5月12日

島根県社会福祉協議会中期計画評価委員会

委員長 加川 充 浩

(島根大学人間科学部福祉社会教室 准教授)

## 第3期中期計画重点項目 評価一覧

A: 順調に進んでいる  
 B: 概ね順調に進んでいるが見直す点もある  
 C: あまり順調に進んでいない

### テーマⅠ 「しまね流ふくし」の推進に向けた新たな支え合いのための基盤づくり

重点項目	評価
1 地域が一体となった子育て・子育て支援の推進	B
2 社会福祉法人を核とした「ふくしで地域創生」の推進	B
3 ファンドを活用した新たな支え合いの推進	/
(1) 「新たな支え合いファンド」助成金の募集	C
(2) 事業の広報啓発	B

### テーマⅡ 誰もが社会の中でいきいきと活躍できる共生社会の実現

重点項目	評価
1 「ふくしの学び合い」の推進	A

### テーマⅢ 県域及び市町村域における包括的なセーフティネット機能の強化

重点項目	評価
1 ふくしが支える地域安心生活保障の推進	/
(1) ふくし安心生活支援ネットワークの形成	B
(2) 地域安心生活を総合的に保障する仕組みの創設	B
(3) 社会的居場所や就労の場の開拓と中間的就労の立ち上げ	A

### テーマⅣ 福祉サービスの確保と質の向上

重点項目	評価
1 福祉人材の確保・定着支援の推進	/
(1) 福祉人材センター運営事業	B
(2) 福祉・介護人材マッチング支援事業	B
(3) 介護の就職チャレンジ支援事業	B
(4) 保育士・保育所支援事業	B
(5) 福祉サービス事業従事者研修の実施	A
(6) 事業者の人材育成・定着化に向けた個別支援	B
(7) 福祉従事者研修体系整備事業	B

## 第3期中期計画重点項目ごとの進捗状況及び評価内容

### I 「しまね流ふくし」の推進に向けた新たな支え合いのための基盤づくり

#### 1 地域が一体となった子育て・子育て支援の推進（第3期中期計画重点項目）

[中期目標（平成27年度～平成29年度）]

子育て家庭の不安感や負担感の軽減、孤立を防ぎ、子ども自身が心身共に成長する力をつけることができる子育て・子育て拠点づくりモデルを開発・普及する。

#### 重点項目1 地域が一体となった子育て・子育て支援の推進 — 島根県社協 第3期中期計画（平成27～29年度） —

##### 目標を達成するための主な取り組み

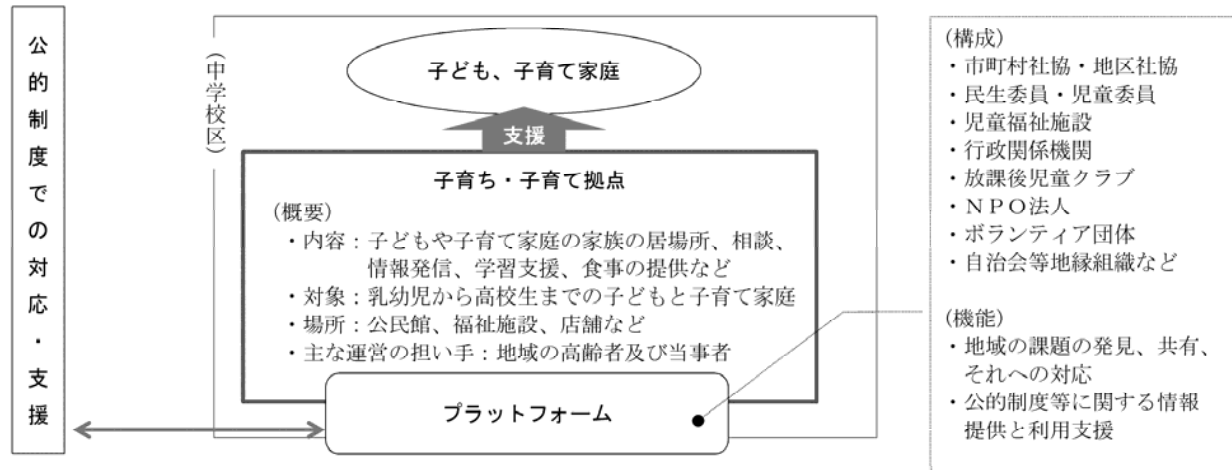
##### ①地域が一体となった子育て・子育て拠点づくりモデルの開発

身近な地域において子育て・子育てを支える関係者を中心に支え合いを基本としたプラットフォームを形成し、親同士、子ども同士、大人と子どもの交流、情報交換、身近な相談など地域住民が交流することで、子育て家庭の不安感や負担感の軽減や孤立を防ぐとともに、子ども自身が心身共に成長する力をつけることができる地域の様々な担い手が参画した子育て・子育てを支える拠点づくりのモデルを開発します。

##### ②子育て・子育て拠点づくりモデルの普及啓発

子育て・子育て拠点づくりの実践から得た立ち上げや推進手順を取りまとめ、研修会等の開催など様々な方法により普及啓発を図ります。

#### 【地域が一体となった子育て・子育て拠点のイメージ】



[平成 28 年度目標]

平成 27 年度からスタートした「地域が一体となった子育て・子育て拠点づくりモデル事業」において、当該地域の子育て・子育てに関する課題解決に向けた拠点機能の充実を図っていくとともに、子どもの貧困問題等を主眼に置いた新たな拠点づくりにも着手する。

[平成 28 年度の取り組み状況]

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
<p>(1) 子育て・子育て拠点づくりモデル事業</p>	<p>松江市法吉地区でのモデル事業（継続）のうち、未就学児と保護者を対象に毎月 2 回活動している「比津にこにこクラブ」の 4/12 から 3/28 まで 26 回の延べ参加者数は親子 397 組、地域ボランティア 63 名。</p> <p>小学校 4～6 年生を対象に毎月 2 回開催している学習支援活動「ほっき寺子屋」（新規）の 9/1 から 3/2 まで 13 回の延べ参加者数は 115 人。利用登録児童 12 名、島根大学生ボランティア登録者 7 名、地域ボランティア登録者 11 名（うち教員 OB 6 名）。1 回あたりの参加児童 8～11 名、地域ボランティア 3～5 名、学生ボランティア 0～3 名。</p> <p>2/22 に「法吉地区子育て支援ネットワーク会議」を開催し、来年度も法吉地区社協に委託して事業を継続実施することを確認した。3 月中に小学校を通じて来年度の参加者募集を開始し 20 名の定員に達した。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>にこにこクラブの活動は、充実感や満足感を得られた参加者が、子どもが就学後もスタッフとして活動に参加されるなど、地域の人材育成につながっている。</p> <p>ほっき寺子屋は「学習支援型拠点」として新規に取り組んだが、月 2 回の活動が定着し順調に進んでいる。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>ほっき寺子屋の運営にあたっている地元ボランティアスタッフからは、「子どもたちの成長が感じられてうれしい」等、活動参加に対する満足度は高いが、参加している児童やその保護者が、どのように感じているか不明なので、アンケート調査を実施するなどの取り組みが必要。</p>	<p>B</p>	<p>○評価妥当</p> <p>○全県的に取り組みを進めるにあたり、既存の社会資源をつなげていくこと、活用することが重要。</p> <p>○保護者の意見を取り入れるため、ネットワーク会議に保護者にも参加してもらってはどうか。</p> <p>○参加者の満足度は事業の継続性に関わるため、満足度の評価は必要。</p>

松江市大庭地区における食事提供型子どもの居場所づくりモデル事業（新規）「なないろ食堂」は毎月1回開催し、8月から3月までの延べ参加者数は子ども142人、保護者等大人77人、ボランティア実数は約70人。3/15に「第2回なないろ食堂運営委員会」を開催し、これまでの開催状況等を報告するとともに、来年度の開催予定等について協議した。

関連事業として、県内の13の子ども食堂運営者・団体に呼びかけ、情報・意見交換の場「広がれ、こども食堂の輪！全国ツアーin しまね『子ども食堂交流広場2017』」を3/4に開催したところ、8食堂から11人が発表者として参加され、一般参加者約70名が来場した。子ども食堂を取り上げた企画としては本県ではおそらく初開催だったが、県外から招いた助言者からアドバイスなどもいただき、発表団体からは「横のつながりができてよかった」、参加者からは「県内の活動状況が分かってよかった」などの感想が寄せられた。

#### 【成果】

「なないろ食堂」は地元の小学生の参加も増えてきて、地域に定着しつつある。

回を重ねるごとに地元住民からの食材提供や活動プログラムの提案が増え、この活動に対する理解が広がってきている。

#### 【課題】

ボランティア分も含め1回あたり60食前後が必要となる中、調理スタッフの確保が課題であり、地元の社会福祉法人へ地域貢献の一環として職員の参加を打診したところである。

また地元小・中学校や公民館からの協力を得られておらず、次年度の課題である。

県内で子ども食堂を実践されている方々からは「子ども食堂＝子どもの貧困対策という誤解がある」「学校の協力が得られない」「本当に困っている子どもたちに来てもらえているかどうかわからない」等の声が多く聞かれた。

両モデル事業ともに概ね順調に進んでいるが、今後広く普及させていくためには市町村社協との共通認識を更に強めていく必要があることから、モデル事業実施カ所の増、実践ノウハウのとりまとめに取り組む。

また、市町村社協と連携した地域展開への働きかけを行うため、啓発イベントの実施等に取り組んでいく。

○学校の協力を得るため、運営委員会に学校にも参加してもらってはどうか。

【評価】 A：順調に進んでいる

B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある

C：あまり順調に進んでいない

## 2 社会福祉法人を核とした「ふくしで地域創生」の推進（第3期中期計画重点項目）

[中期目標（平成27年度～平成29年度）]

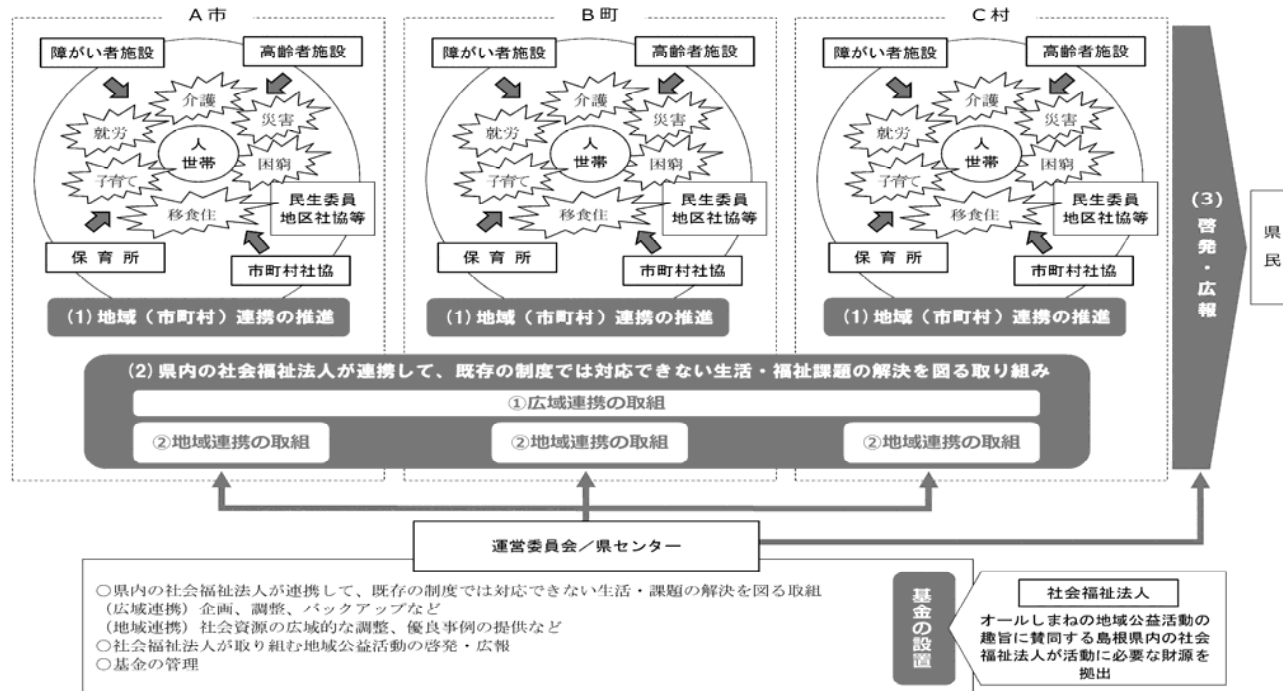
社会福祉法人・施設、社協と地域とが連携して「ふくしによる地域創生」に取り組む先進的な事業モデルを創出する。

### 重点項目2 社会福祉法人を核とした「ふくしで地域創生」の推進 — 島根県社協 第3期中期計画（平成27～29年度） —

#### 目標を達成するための主な取り組み

- ①施設・社協・地域連携事業（オールしまねの地域公益活動）モデルの創出  
施設と社協、地域が連絡協議する場づくりや、地域のニーズに対応する協働事業を開発・実施するモデルを開発します。
- ②施設・社協・地域連携事業の推進体制の整備  
事業者団体、社協や行政等が「ふくしによる地域創生」の推進方策や課題等について研究協議する会議を開催します。
- ③施設・社協・地域連携事業の普及啓発  
先行事例の研究や意見交換などを行う研究会を広域圏単位などで開催し、関係者の共通理解を図り、各地域での実践を促進する研究会を開催します。

#### ～ オールしまねの地域公益活動のイメージ ～





[平成 28 年度目標]

島根県内の社会福祉法人の連携のもと、社会福祉法人が有する施設機能や専門性、ノウハウを活かした社会福祉法人以外の経営主体では対応できない制度の狭間にある課題を解決する取り組みの本格実施に向け、福祉関係団体と協働してその推進体制の立ち上げを目指す。

[平成 28 年度の取り組み状況]

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見																		
<p>(1) オールしまねの地域公益活動推進事業</p> <p>①事業スキームの検討</p> <p>②地域におけるネットワーク化の推進</p>	<p>当初、県域の仕組みを構築することとしていたが、種別協議会、市町村社協と協議を重ね、市町村主体の推進体制（市町村内の社会福祉法人のネットワーク化）の整備を優先的に進めていくこととし、本会職員が地域に入り込んで支援を行った。</p> <p>○各市町村の社会福祉法人によるネットワーク化の進捗状況</p> <table border="1" data-bbox="676 820 1245 1099"> <thead> <tr> <th>進捗状況</th> <th>市町村数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ネットワークがある</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>(ネットワーク化に向けて)他の社会福祉法人と協議中</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>(ネットワーク化に向けて)社協内で検討中</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>社会福祉法人が 1 法人のみ</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>○社会福祉法人地域公益活動推進セミナーの開催 2/7 出雲市・63 法人・103 名</p> <p>○本会支援実績</p> <table border="1" data-bbox="676 1256 1621 1437"> <thead> <tr> <th>支援内容</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種別協議会の理事会等での説明、意見交換等</td> <td>7 団体 11 回</td> </tr> <tr> <td>各市町村の法人連絡会、準備会等への参画</td> <td>9 市町 22 回</td> </tr> <tr> <td>市町村社協への訪問</td> <td>19 市町村 24 回</td> </tr> </tbody> </table>	進捗状況	市町村数	ネットワークがある	9	(ネットワーク化に向けて)他の社会福祉法人と協議中	8	(ネットワーク化に向けて)社協内で検討中	1	社会福祉法人が 1 法人のみ	1	支援内容	回数	種別協議会の理事会等での説明、意見交換等	7 団体 11 回	各市町村の法人連絡会、準備会等への参画	9 市町 22 回	市町村社協への訪問	19 市町村 24 回	<p><b>【成果】</b></p> <p>社会福祉法人が複数ある 18 市町のうち、9 市町でネットワーク化が図られ、8 市町でネットワーク化に向けた協議が進められている。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>各地域で法人連携による地域公益活動を進めるための支援を行うとともに、県民や関係団体・機関に向けた積極的な情報発信を行っていく必要がある。</p>	<p>B</p>	<p>○評価妥当</p> <p>○例えば地域で取り組まれている子育て支援活動と連携した取り組みとすることも考えられる。</p> <p>○生活困窮者の支援にあたっては、社会福祉法人のネットワークと生活困窮者自立相談窓口との連携が必要。</p>
進捗状況	市町村数																					
ネットワークがある	9																					
(ネットワーク化に向けて)他の社会福祉法人と協議中	8																					
(ネットワーク化に向けて)社協内で検討中	1																					
社会福祉法人が 1 法人のみ	1																					
支援内容	回数																					
種別協議会の理事会等での説明、意見交換等	7 団体 11 回																					
各市町村の法人連絡会、準備会等への参画	9 市町 22 回																					
市町村社協への訪問	19 市町村 24 回																					

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
<p>③社会福祉法人施設と社協、地域が連携した生活困窮者等支援に関する実証研究事業の実施</p>	<p>他府県で実施されている経済的援助（現物給付）機能を持った総合相談・支援事業を参考に、制度の狭間を補完・代替する取組を試行的に実施し、その有効性や全県展開の必要性等について検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○試行的事業を実施した市町社協 松江市、浜田市、隠岐の島町の3市町社協</li> <li>○試行的事業を実施する社協による実証研究事業連絡会の開催（第1回・5/12、第2回・1/12）</li> <li>○支援実績：22件 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1件あたりの支援金額 501円～36,010円（平均7,868円）</li> <li>■ 経済的支援の例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食料品の提供の際に、経済的支援（現物給付）だけを求める者の増加が懸念されることや要支援者の周囲の反応への配慮などから、相談中に（別の職員が）必要と思われる食料品をスーパーに買いに行き、あくまでもフードバンクを活用した形で提供。</li> <li>・ 食料品の提供の際に、要支援者の周囲の反応への配慮などから、1週間程度の食糧費を現金で渡し、後日精算する方法で提供。</li> <li>・ 電気、ガス、電話料金の滞納分の支払。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>切迫する困窮ニーズにおいては、現場の判断で即時に現物給付できる仕組みがあることで支援の幅が広がることが分かった。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>当初は社会福祉法人からの拠出による基金造成等も想定していたが、実証事業においては、それほど多額の費用が必要ないという結果であった。</p> <p>当面は、地域の状況に応じて各社協の独自事業として取り組むこととした。</p>	<p>○社協では対応できない部分については、施設法人との連携によって、支援や解決手段が広がることを期待する。</p>	

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

### 3 ファンドを活用した新たな支え合いの推進（第3期中期計画重点項目）

[中期目標（平成27年度～平成29年度）]

「新たな支え合いファンド」が周知され、生活・福祉課題の解決を目指し、高齢者等が主体となった支え合いサービス実践に向けた気運が高まっている。

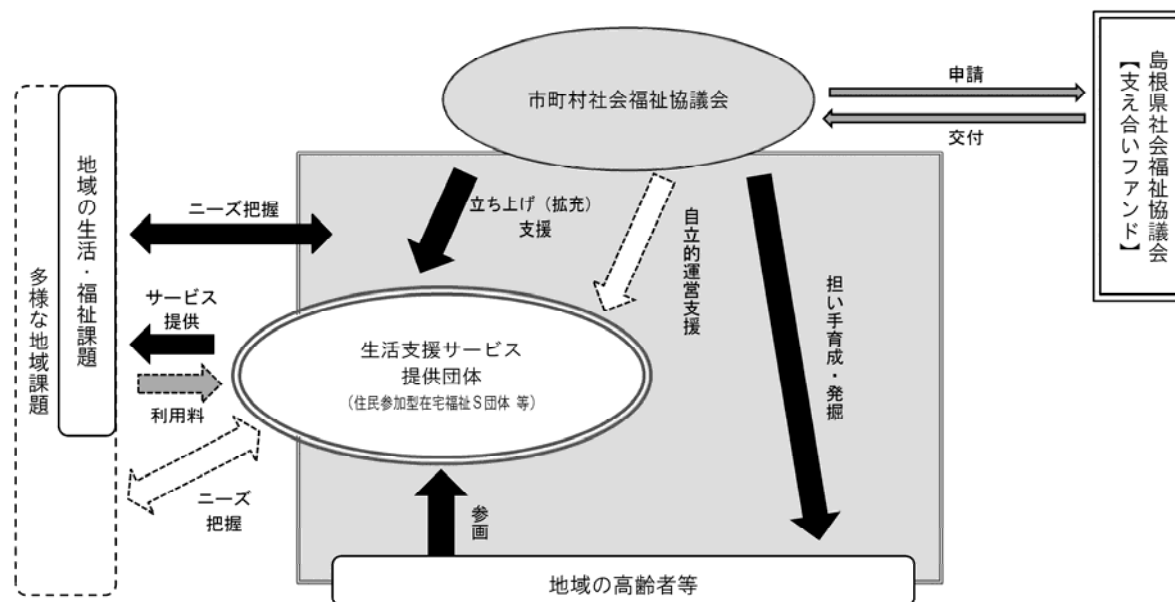
#### 重点項目3 ファンドを活用した新たな支え合いの推進 — 島根県社協 第3期中期計画（平成27～29年度） —

##### 目標を達成するための主な取り組み

「新たな支え合いファンド（仮称）」

市町村社協が核となり実施する、住民組織（生活支援サービス提供団体）の立ち上げ（又は拡充）を支援するための事業費助成をします。

##### 【新たな支え合いファンド事業のイメージ】



##### 取組（例）

- ・ 地域特性とニーズの把握、対応すべきニーズの再確認 ・ 新たなサービスの開発 ・ 活動参加の呼びかけと担い手育成
- ・ 多様な社会資源の活用とネットワーク化 ・ サービス提供体制の構築と総合的な相談援助体制へのつなぎ
- ・ 地域での活動基盤づくり（情報提供、福祉教育）等

[平成 28 年度目標]

生活・福祉課題の解決を目指し、市町村社協が核となり高齢者等の住民が主体となった支え合い活動の開発・実践を支援する「新たな支え合いファンド」(助成事業)を創設し、住民参加型活動に対する気運の醸成を図っていく。

[平成 28 年度の取り組み状況]

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
(1) 「新たな支え合い ファンド」助成金の 募集	<p>4/1 より募集開始。8/3 に審査会を開催し、2 件採択(安来市社協、隠岐の島町社協)</p> <p>3/25 に安来市、3/26 に隠岐の島町が団体立ち上げた。</p> <p>平成 29 年度分助成を 11/18 に募集開始。2/15 に審査会を開催し、2 件採択(松江市社協、江津市社協)</p> <p>平成 29 年度分については、追加募集することとし、4~6 月に募集する予定。</p>	<p><b>【成果】</b> 新規事業であったが申請・審査・決定・助成事業実践と、円滑な事業実施が出来た。</p> <p><b>【課題】</b> 年間 10 件程度の申請・決定を見込んでいたが、平成 28 年度分・29 年度分ともに申請 2 件と件数が少なかった。次年度に向け、採択社協のノウハウ等を市町村社協へ伝えていながら、サービス団体立ち上げにつなげる必要がある。</p>	C	<p>○評価妥当</p> <p>○市町村社協や活動団体がさらに使いやすい助成事業となるよう検討してほしい。</p>
(2) 事業の広報啓発	<p>19 市町村社協を訪問し、新たな支え合いファンドについて説明するとともに、当該地域における生活・福祉課題等についてヒアリングを行いながら、助成金の活用方法等について情報交換を行った。</p> <p>また、地域福祉推進委員会、市町村社協戦略会議、市町村社協会長会等の場でも、市町村社協に対して助成金の活用を呼び掛けた。</p>	<p><b>【成果】</b> 全ての市町村社協を訪問し、事業の説明を行った。</p> <p><b>【課題】</b> 訪問や会議での説明が申請件数に結びついていない。「2 年間にサービス開始が見込めること」という助成条件を厳しく捉える社協が多いように思われる。</p> <p>H29 年度分については追加募集を行うこととしている。また、あらゆる機会を通じて PR を行っていく。</p>	B	<p>○評価妥当</p>

[評価] A: 順調に進んでいる B: 概ね順調に進んでいるが見直す点もある C: あまり順調に進んでいない

## Ⅱ 誰もが社会の中でいきいきと活躍できる共生社会の実現

### 1 「ふくしの学び合い」の推進（第3期中期計画重点項目）

[中期目標（平成27年度～平成29年度）]

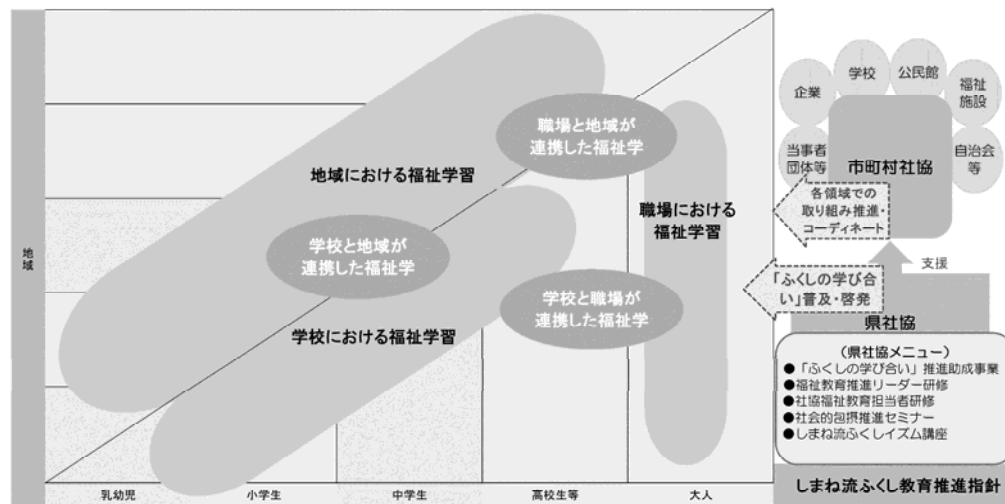
長期ビジョン実現に向けた「福祉教育指針」策定と同指針に基づいた事業が、市町村社協を中心に展開されている。

#### 重点項目4 「ふくしの学び合い」の推進 — 島根県社協 第3期中期計画（平成27～29年度） —

##### 目標を達成するための主な取り組み

- ①しまね流ふくし教育推進指針（プログラムを含む）の策定  
長期ビジョンの実現に向けて、福祉教育推進事業検討小委員会の提言(H27.3 予定)を踏まえながら、平成28年度以降の本会福祉教育のあり方を示す指針を策定します。
- ②しまね流ふくし教育推進事業（仮称）の実施
  - (1)地域を基盤としたふくしの学び合いの推進  
学校、地域、社会福祉施設、企業、社協が連携した福祉教育を推進するため、地域をモデル指定するなどして、社会的包摂に向けた福祉教育、企業に対する福祉教育などその取り組みを支援します。
  - (2)小中学生のための「しまねふくしイズム講座」の開設  
小中学生に対して、たすけあいや支えあいの心、福祉・介護の仕事のやりがいや魅力を認識してもらうことにより、福祉マインドの醸成を図ります。

ライフステージや生活場面等に応じた「ふくしの学び合い」の全体図



福祉の心の醸成～地域に暮し・地域を考え・地域を支える福祉の学び合い～

(学ぶ過程) 感覚を養う ⇒ 関心を持つ・課題を認識する ⇒ 課題解決の方策を考える ⇒ (実践の過程) 活動を実践する ⇒ 活動を振り返る

[平成 28 年度目標]

新たに策定した「しまね流ふくし教育推進指針」に基づき、市町村社協と協働しながら、地域を基盤に県民一人ひとりのライフステージや生活場面等に応じた「ふくしの学び合い (=福祉学習プログラム)」を通じて福祉の心の醸成を図っていく取り組みを積極的に推進していく。

また、福祉学習プログラムの一環として、将来の福祉人材確保を目的とした「しまね流ふくしイズム講座 (仮称)」を社会福祉施設等と連携しながら取り組んでいく。

[平成 28 年度の取り組み状況]

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
(1) しまね流ふくし教育推進事業 ①福祉教育推進協議会	7/12 第 1 回開催。委員長・副委員長選任 H28 年度事業計画について報告。 3/3 第 2 回開催 H28 事業実施状況報告、H29 年度事業計画協議。	<b>【成果】</b> 「しまね流福祉教育推進指針」に基づき実施した研修等はいずれも参加者に好評であった。  <b>【課題】</b> 市町村社協と社会福祉事業所、公民館、企業との連携を強化し、全ての世代での福祉教育の推進を図っていく必要がある。  本年度作成した中学校における「福祉施設での職場体験」を促進するための手引きが有効活用されるよう、広報・周知していく必要がある。	A	○評価妥当
②「ふくしの学び合い」推進助成事業	出雲市、大田市、邑南町 3 社協で事業実施。福祉教育推進協議会委員により視察・助言 大田市社協 11/13 出雲市社協 11/15、邑南町社協 12/15 事務局訪問 大田市社協 2/15、3/13			
③福祉教育推進リーダー研修	9/7 県松江合同庁舎で開催。受講者 23 名			
④福祉教育担当職員研修	5/13 いきいきプラザ島根で開催。 受講者 17 名			
⑤社会的包摂推進セミナー	8/5 出雲市民会館で社会的包摂をテーマとする「福祉教育推進セミナー」を開催。参加者 65 名			

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
<p>⑥しまねふくしイズム講座</p>	<p>中学生の職場体験が福祉・介護の仕事のやりがいや魅力を発見する機会となるように、社会福祉事業所（除保育所）が中学生の職場体験を受け入れる際の事前準備から活動にあたっての留意点、体験プログラム例を取りまとめた「高齢者・障がい者事業所における中学生職場体験受入の手引き～福祉・介護のやりがいや魅力を伝えるために～」を作成し、社会福祉法人、中学校等に配布した。</p> <p>手引きを作成するため検討会を設置し4回開催した。検討会メンバー（県社会福祉事業団、松江市社協、県社協法人支援部、オブザーバー・県教育庁教育指導課地域教育推進室）</p>		<p>現役就労世代へのアプローチについては、今後も福祉教育推進協議会において検討を進めていく。</p> <p>また、手引きの活用を図るために、種別協議会と連携し、会議・研修等の場で周知していく。</p>	<p>○保育所においても中学生の職場体験は広く取り組まれており、職業に対する理解だけでなく、将来の子育てに対するイメージにもプラスになる側面がある。保育所での体験事業も含め、福祉教育全体の取り組み状況を表していくべきではないか。</p>

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

### Ⅲ 県域及び市町村域における包括的なセーフティネット機能の強化

#### 1 ふくしが支える地域安心生活保障の推進（第3期中期計画重点項目）

[中期目標（平成27年度～平成29年度）]

誰もが地域で安心して生活できる仕組みをつくる。

#### 重点項目5

#### ふくしが支える地域安心生活保障の推進

— 島根県社協 第3期中期計画（平成27～29年度） —

#### 目標を達成するための主な取り組み

##### ①ふくし安心生活支援ネットワークの形成

県内各地で生活困窮者等の支援を行っている実践者や関係機関・団体等が相互に情報・経験の交換や共有等を行うネットワークを形成し、行政等との連携により、研修や共同事業などを企画・実施します。

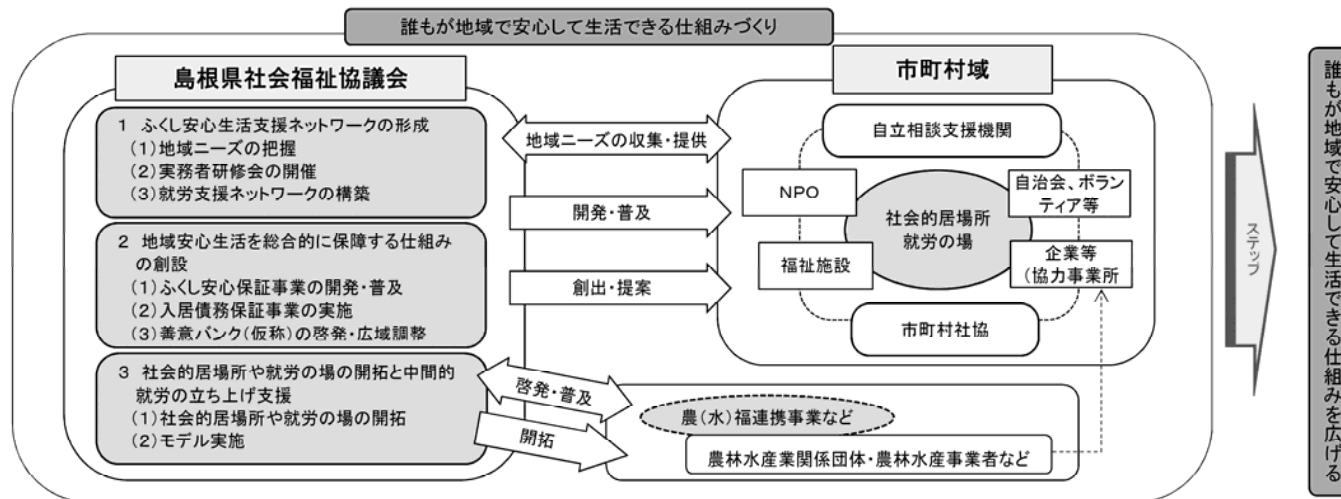
##### ②地域安心生活を総合的に保障する仕組みの創設

地域で生活する上で障壁となる財産管理や身元保証など既存の制度では十分に対応できていない「制度の狭間」を保障する機能を地域のなかで担う仕組みを構築します。

##### ③社会的居場所や就労の場の開拓と中間的就労の立上げ支援

生きづらさや働きにくさを感じている人たちが地域等とのつながりを強め、周囲から認められているという実感を得ることのできる居場所や就労の場を創出・開拓していきます。

#### 【ふくしが支える地域安心生活保障のイメージ】





[平成 28 年度目標]

地域で生活する上で障壁となる財産管理や身元保証など、既存制度では十分に対応できていない「制度の狭間」を保障する機能を地域の中で担う仕組みの構築を推進するとともに、生きづらさや働きにくさを抱える人たちが地域等とつながり、社会の中で役割を持つことのできる居場所や就労の場を創出・開拓する。

また、生活困窮者等の支援を行っている実践者等が相互に情報・経験の交換や共有等を行うネットワークの形成を推進する。

[平成 28 年度の取り組み状況]

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
<p>(1) ふくし安心生活支援ネットワークの形成</p> <p>①地域ニーズの把握</p> <hr/> <p>②生活困窮者支援担当職員勉強会</p>	<p>自立相談支援事業の実施状況・課題等の把握、就労訓練事業実施事業所の開拓のため、県内 7 カ所(松江市、浜田市、出雲市、大田市、安来市、江津市、雲南市、)を訪問した。</p> <p>また、西部地域（浜田市、益田市、江津市、津和野町、吉賀町）の担当者連絡会、県主催の生活困窮者自立支援事業連絡会議・人材養成研修や子ども・若者地域協議会、居住支援協議会に参加した。</p> <p>(延べ 39 回)</p> <hr/> <p>[第 1 回] 7/29・市町村社協職員・34 名</p> <p>[第 2 回] 10/17・市町村社協職員・43 名</p> <p>[第 3 回] 2/6・市町村社協職員・39 名</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>自立相談支援機関の取組状況や緊急的な支援・就労支援などの課題を把握することにより、実施機関間の情報の共有、支援担当職員勉強会テーマや今後の事業構築の検討材料になった。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>生活困窮者自立支援事業、生活福祉資金貸付事業、日常生活自立支援事業など、生活困窮者支援にかかる市町村社協担当職員等のスキルアップが図れるよう、引き続き勉強会、研修会等を通じた取り組みが必要である。</p>	<p>B</p> <p>○評価妥当</p>	

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
<p>(2) 地域安心生活を総合的に保障する仕組みづくりの推進</p> <p>①ふくし安心保証事業の検討</p>	<p>○ 局内、局外プロジェクトを設置し、高齢者・障がい者の入所施設の利用に関する身元保証人等の問題について、現状と課題を把握し、次年度以降の取り組みの方向性等について検討した。</p> <p>〈局内〉第1回・4/21、第2回・5/25、第3回・7/19 第4回・10/27、第5回・1/11、第6回・3/16 〈局外〉第1回・9/20、第2回・12/22、第3回・3/3 〈実態調査〉6月～7月 老施協・知福協会員施設調査 〈ヒアリングの実施〉11月 福祉施設（4カ所）、医療機関（1カ所）、自治体（4カ所）</p> <p>○ 公営住宅の保証要件緩和について、市営住宅について働きかけを行った。（7/5 浜田市）また、身寄りのない障がい者の公営住宅への入居に関し、浜田圏域障害者自立支援協議会居住支援部会での検討に参画した。（2/22）</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>高齢者・障がい者の入所施設の利用に関する身元保証人等について、身元保証人を求めている状況やその役割などを把握することができた。</p> <p>また、その役割のうち既存の制度・サービスで対応できるもの、できないものの整理をある程度明らかにすることができた。</p> <p>〈今後の取り組み〉</p> <p>○検討プロジェクトでの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保証人に求められる事項の課題整理</li> <li>・新たな保証機能（債務保証・機関保証）の検討</li> <li>・指針の策定 など</li> </ul> <p>○身元保証に関係する既存制度・サービスの関係機関への周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種別団体等を通じた周知</li> <li>・福祉施設の入所に伴う身元保証機能を考えるセミナー（仮称）の開催</li> </ul> <p>○身元保証に関係する既存制度・サービスの適正な運営や新たな保証機能等について関係機関に要望</p>	B	<p>○評価妥当</p> <p>○身元保証人を確保できない人に対する支援は、社協等が組織的に対応していくことが求められる。</p>

②島根県入居債務保証支援事業

◇契約件数

社協名	H24	H25	H26	H27	H28	計	契約中 件数	備考
島根県社協 (松江市)	1件	24件	23件			48件	0件	
松江市社協				37件	32件	69件	57件	再契約24件含む
浜田市社協		1件	1件	1件	2件	5件	3件	再契約1件含む
益田市社協			1件	3件	3件	7件	6件	再契約1件含む
安来市社協				1件		1件	1件	
合計	1件	25件	25件	42件	37件	130件	67件	

◇契約期間終了・契約解除件数

年度	契約解除等 件数	保証金 支払件数	保証金支払額
H25	5件	0件	0円
H26	7件	4件	222千円
H27	22件	5件	473千円
H28	29件	3件	326千円
合計	63件	12件	1,021千円

③住まい確保と住まい方支援セミナー

住宅確保要配慮者の住まいの確保と見守りや生活支援など住まい方支援について現状把握と課題提起を目的として開催した。  
(12/2・福祉関係者・住宅関係者等 37名)

【成果】

入居債務保証支援事業の保証の限度額について、月額家賃が地域の実情等に応じて生活保護制度の特別基準額まで認められるようになり、地域の家賃相場に対応できるようになった。

【課題】

- 公営住宅等新たな住宅の確保
  - ・公営住宅（県営、市町村営）への拡大
  - ・民間賃貸住宅のオーナー、取扱業者の理解者の拡大
- 貸主と借主双方の不安を解消するサービスの構築  
賃貸住宅の入居中や退去時において、家賃債務保証、身元保証、見守り、生活相談・支援、金銭・財産管理、葬儀・家財整理など、住宅確保要配慮者それぞれの課題や支援ニーズに応じたサービスの構築をする必要がある。

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
<p>(3) 社会的居場所や就労の場の開拓と中間的就労の立ち上げ</p> <p>①社会的居場所や就労の場の開拓</p>	<p>局内と松江市社協による就労支援プロジェクトを設置し、障がい者の就労系事業所における生活困窮者を対象とした就労訓練事業（中間的就労）の立ち上げ支援策について検討した。</p> <p>第1回・6/8、第2回・8/1</p> <p>就労訓練事業所の開拓について、松江市、浜田市、出雲市、大田市、安来市、江津市、雲南市、奥出雲町内の合計8法人を訪問。このうち、松江市、浜田市、出雲市、大田市所在の合計5法人10事業所が島根県の認定を受けた。</p>	<p><b>【成果】</b> 就労訓練事業実施事業所の立ち上げ支援について、就労訓練事業所を必要としている自立相談支援機関との協働で障がい者の就労系事業所への働きかけにより、県内で5法人10事業所において実施できる体制が整った。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活困窮者自立支援制度の実施主体である市町村が主体となった就労訓練事業所の開拓</li> <li>○ 自立相談支援事業、就労準備支援事業、就労訓練事業間の切れ目のない就労支援の仕組みづくり</li> <li>○ 就労訓練事業所における支援体制・支援方法などについての関係者間での研究</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○評価妥当</li> <li>○ひきこもり等の潜在的な支援ニーズは多いと思われる。</li> <li>○他の就労支援施策との連携が必要。</li> </ul>	
<p>②知的障がい者支援事業所に対する説明・相談会</p>	<p>就労訓練事業の立ち上げ支援の一環として、県知的障害者福祉協会との共催により障害福祉サービス事業所等を対象とした説明会を開催した。</p> <p>(松江・10/25・49名、浜田・10/26・26名)</p>			
<p>③生活困窮者就労訓練事業推進セミナー</p>	<p>社会福祉法人による地域公益活動の具体的な推進方策などについて、講義や実践発表を通じて理解を深めるとともに、各法人における生活困窮者就労訓練事業を含めた地域公益活動への取り組みの充実強化を目的として島根県社会福祉法人経営者協議会との共催で開催した。</p> <p>(2/7 出雲市・63法人119名)</p>			

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

## IV 福祉サービスの確保と質の向上

### 1 福祉人材の確保・定着支援の推進（第3期中期計画重点項目）

[中期目標（平成27年度～平成29年度）]

福祉の仕事の魅力が多様な主体から発信されるとともに、事業所においては働きやすく継続（定着）できる職場環境づくりへの取り組みが加速化している。

#### 重点項目6 福祉人材の確保・定着支援の推進

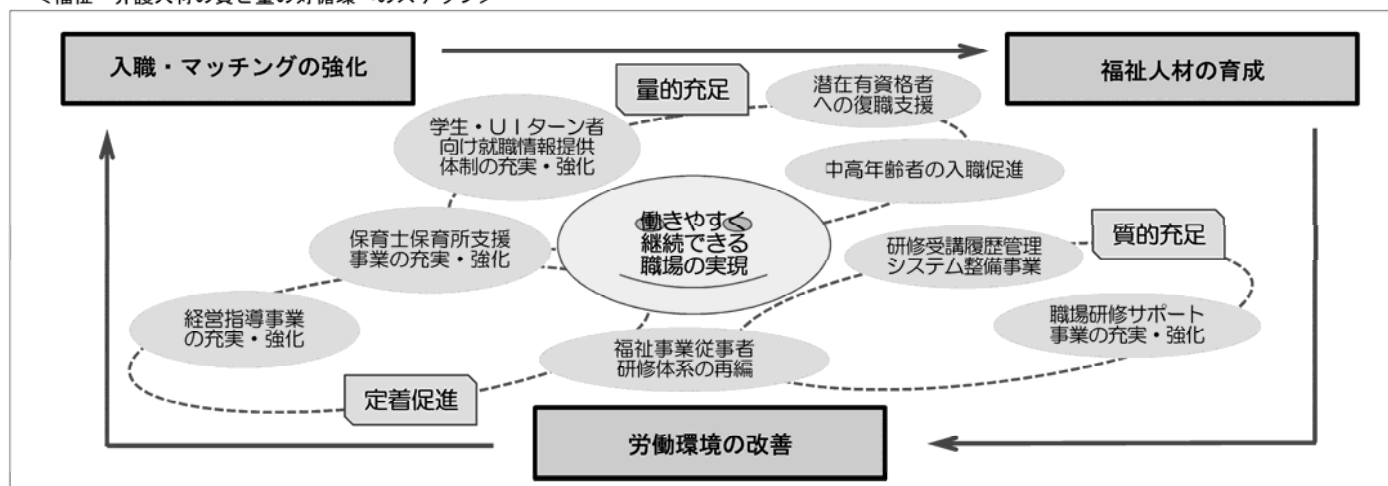
— 島根県社協 第3期中期計画（平成27～29年度） —

##### 目標を達成するための主な取り組み

- ①学生向け福祉人材確保推進事業（「しまね福祉のお仕事ひろば（仮称）」）  
県内外の養成校の学生とその保護者を対象とした就職情報を定期的に提供します。
- ②中高年齢者向け介護職就職促進プログラム開発事業  
事業所の中高年齢者を受け入れる環境整備を促進するための支援や求職者向け就業支援を実施します。
- ③しまね保育士バンク制度（仮称）の創設  
保育士資格保持者の保育士バンクへの登録を求めるとともに、離職者に対して離職後も「つながり」を確保し、効果的・総合的な支援を行うことにより、保育士の復職支援の強化を図ります。
- ④福祉事業従事者研修体系整備事業  
種別協議会や職能団体等の参画のもとにプロジェクト会議を設置し、本会研修事業体系のあり方やこの体系のもとに必要な独自研修を明らかにし、計画的に実施します。
- ⑤福祉事業従事者研修受講履歴管理システム整備事業  
従事者毎の研修受講履歴WEB管理システムを構築し、個々人の受講歴・修了歴の適正な管理のもとに、キャリア形成に向けた計画的研修受講を促します。

##### 【福祉人材の確保・定着支援の推進イメージ】

<福祉・介護人材の質と量の好循環へのステップ>



[平成 28 年度目標]

福祉職場における人材確保に向けて、県内外の養成校で学ぶ本県出身者の県内就職率を高める取り組みの強化や、潜在有資格者の再就職支援、中高年・専業主婦層の介護資格取得支援とともに、事業所の採用力向上に向けた取り組みをすすめる。

また、福祉従事者研修事業の充実や職場研修サポート事業を通じて、福祉職場における人材の育成と定着を支援するとともに、福祉職場におけるキャリア形成やキャリアパス構築の必要性が指摘される中で、平成 29 年度以降の福祉従事者研修事業の体系化を図る。

[平成 28 年度の取り組み状況]

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
<p>(1) 福祉人材センター 運営事業</p> <p>① 無料職業紹介事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規求人件数 3015 件(1170 件)/[2845]</li> <li>・新規求人数 5456 人(2088 人)/[4587]</li> <li>・新規求職者数 1252 人(285 人)/[1735]</li> <li>・就職人数 288 人(73 人)/[351]</li> </ul> <p>( )は石見分室実績、[ ]は前年度実績</p>	<p>[成果]</p> <p>福祉の就職フェアの参加者数については、開催方法等を考慮して実施したこともあり前年度実績を維持することができた。</p> <p>[課題]</p> <p>新規求人が増加する一方で、新規求職者は減少しており、県内外ガイダンスやハローワーク等との連携を強化して求職者を開拓することが喫緊の課題である。</p> <p>また就職人数(マッチング数)も前年度実績から 63 名減少したことから、就職人数を増加させるために求職者個々のニーズを踏まえた丁寧なマッチングを行うことが求められている。</p>	<p>C</p> <p>○評価Bが妥当。</p> <p>○さまざまな手を尽くし努力しているが、外的な要因に実績が左右される面がある。</p>	
<p>② 福祉・保育の就職フェア</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松江会場：5/21、くにびきメッセ、50 法人、128 名/[134 名]</li> <li>・出雲会場：5/7、朱鷺会館、29 法人、85 名/[102 名]</li> <li>・浜田会場：8/9、いわみーる、21 法人、37 名/[37 名]</li> </ul> <p><u>合計 100 法人、250 名[273 名]</u></p> <p>[ ]は前年度実績</p>			
<p>③ 運営委員会</p>	<p>第 1 回：H28/8/9 開催</p> <p>第 2 回：H29/3/9 開催</p>			

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
<p>(2) 福祉・介護人材マッチング支援事業</p> <p>①求人求職開拓及び就職相談・支援</p> <p>②県内外における就職相談会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求人開拓：訪問事業所 180（西部 64） [112]</li> <li>・ マッチング：求人情報提供（月 3 回）、電話等による個別支援</li> <li>・ 出張相談会：松江⇒11 回(10 名 [17 名]) 出雲⇒10 回(31 名 [32 名]) 大田⇒11 回(17 名 [12 名]) 益田⇒11 回(21 名 [15 名]) <u>雲南⇒2 回(17 名 [22 名])</u> 合計 45 回(96 名 [98 名])</li> <li>・ 就職ガイダンス 【県内】 実施回数 33 回[22 回]、参加者数 617 名[397 名] 【県外】 実施回数 12 回[16 回]、参加者数 231 名[230 名]</li> <li>・ 他機関の就職フェア 【県内】 実施回数 15 回[11 回]、参加者数 31 名[40 名] 【県外】 実施回数 2 回[8 回]、参加者数 11 名[82 名] [ ]は前年度実績</li> </ul>	<p>[成果]</p> <p>求人・求職開拓に向けた取組みを積極的に実施したことに伴い、訪問事業所数及び県内就職ガイダンス参加者数が増加した。</p> <p>また、福祉の職場体験事業については、募集要項の見直し(対象者の拡大等)や積極的な広報により、利用者数が増加した。</p> <p>更に福祉・介護の仕事就職・転職フェアの参加者数については、開催時期(学生への広報活動解禁日)等を考慮して実施したこともあり、前年度を上回る参加者を得ることができた。</p> <p>[課題]</p> <p>福祉養成校等の学生及びその保護者に対して県内福祉情報を提供するサイト「しまね福祉・保育のお仕事広場」について、登録者(事業所)の増及び情報提供内容の充実が課題である。</p>	<p>B</p> <p>○評価妥当</p>	
<p>③福祉・介護の仕事 就職・転職フェア</p>	<p>H29/3/5(日)いきいきプラザ島根</p> <p>40 法人 97 名 / [83 名]</p> <p>[ ]は前年度実績</p>			
<p>④福祉の職場体験事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東部エリア：58 件 (のべ 63 日) [5 件]</li> <li>・ 西部エリア：45 件 (のべ 58 日) [4 件]</li> <li>合計：103 件、のべ 121 日 (※見学含む)</li> </ul>			
<p>⑤採用活動向上支援 セミナー</p>	<p>H29/3/5(日)実施</p> <p>53 法人 参加者数 54 名</p>			

⑥福祉の仕事魅力発信事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護の仕事」理解副読本『高齢者介護の仕事を知ろう』を 500 部増刷し、県を通じて県内小・中学校へ配布</li> <li>・高校生向け福祉の仕事ガイド「しまねで福祉のお仕事」を 7000 部増刷し、県を通じて県内高等学校へ配布</li> </ul>			
⑦福祉人材の確保定着に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求職者向け調査 平成 28 年度 10 月から調査開始 (H27 年 9 月以降に就職した者が対象)</li> <li>・事業所向け調査 平成 29 年 1 月から調査開始 (H28 年 1 月～12 月の期間を対象)</li> </ul>			
⑧新任介護職員育成ガイドライン普及啓発	新任介護職員教育担当者育成研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・松江会場：H29/1/23(月)、いきいきプラザ 47 名</li> <li>・浜田会場：H29/1/30(月)、いわみーる 38 名</li> </ul>			
⑨介護分野における中高年齢者就職促進方策検討会議	介護分野における中高年齢者就職支援セミナー H28/12/19 (月) 朱鷺会館(出雲市) 48 名			
⑩しまね福祉のお仕事ひろばの運用	登録者：98 名(学生 86 名・保護者 12 名) 登録事業所：113 事業所 ※県内高等学校訪問の実施(38 校)			
<b>(3) 介護の就職チャレンジ支援事業</b>  ①介護職員初任者研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松江会場：9/2～10/18、いきいきプラザ島根 参加者 7 名 [前年度 19 名]</li> <li>・浜田会場：9/1～10/17、いわみーる 参加者 20 名 [前年度 15 名] [ ]は前年度実績</li> </ul>	<b>[成果]</b> 初任者研修受講者の適性やニーズに応じた就職支援・求人開拓を実施することにより、東部は 5 名/7 名(前年度 11 名/19 名)、西部は 15 名/20 名(前年度 9 名/15 名)の就職に結びついた。  <b>[課題]</b> 介護人材の確保に向けて参加者数を更に増やして福祉事業所へ繋げていく必要がある。平成 29 年度は「介護に関心のある方への入門的研修」を開催して就職希望者の更なる掘り起こしを行うことにしている。	B	○評価妥当
②介護の仕事学び直しセミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松江会場：10/14～15、いきいきプラザ島根 参加者 19 名 [前年度 19 名]</li> <li>・浜田会場：10/14～15、いわみーる 参加者 19 名 [前年度 12 名] [ ]は前年度実績</li> </ul>			



平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
<b>(4) 保育士・保育所支援 事業</b> ①保育士求人求職開拓 及び就職相談・支援	・保育所訪問件数：35（西部 15）[24(西部 10)] [ ]は前年度実績	<b>[成果]</b> 保育の就職支援プロジェクト会議の設置から 3 年が経過し、関係機関・団体間で保育人材の確保及び定着に向けた具体的な事業（エルダー制度導入や保育体験の受入れ促進等）を展開することができた。 特にエルダー制度の導入については、モデル事業実施保育所 10 園の内、効果ありと回答された保育所が 9 園であったことから、平成 29 年度は定員を拡大して研修会を開催し、保育士人材の職場定着を促進する。  <b>[課題]</b> 就職ガイダンスや就職フェアの取組みの強化・保育士バンクの設置等による求職者の積極的な掘り起こしが求められている。	B	○評価妥当  ○エルダー制度も他の事業所とのネットワークや情報交流の場があると良い。
②保育士養成校での就職 ガイダンス	・島根県内：3 ヲ所 (120 人) [1 ヲ所 (18 名)] ・中国地方：13 ヲ所 (298 人) [16 ヲ所 (237)] [ ]は前年度実績			
③学生と保育所の合同相 談会	(数値再掲) ・「福祉・保育の就職フェアしまね」として県内 3 会場で開催 ・松江会場：5/21、くにびきメッセ、19 法人、128 名 ・出雲会場：5/7、朱鷺会館、13 法人、85 名 ・浜田会場：8/9、いわみーる、7 法人、37 名 ※参加者数は来場者総数			
④離島・県西部の保育所 における人材確保への 旅費助成	・隠岐：0 件 [1 件 (10, 100 円)] ・県西部：県西部：6 件 (69, 337 円) [4 件 31, 561 円] [ ]は前年度実績			
⑤保育士就職支援セミナー	・HUG くむセミナー11/9～10 開催（出雲会場） 受講者数：1 会場：10 名 [2 会場：26 名] [ ]は前年度実績			

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
⑥保育の就職支援プロジェクト会議	第 1 回：H28/8/25 開催 第 2 回：H28/12/20 開催 第 3 回：H29/3/7 開催			
⑦保育のお仕事体験の普及啓発	・市郡保育研究会との意見交換会(5～6月) ・保育協会員向け調査の実施(8～11月) ・県内中学校及び高等学校等へ周知(3月)			
⑧保育所におけるエルダー制度導入の支援	県内保育所 10 事業所をモデル指定して実施 ・10 保育所 11 名参加 ・4 月育成研修、5・6 月巡回相談、9 月フォローアップカフェ、 10・11 月巡回相談、2 月成果報告会			
⑨働きやすい職場づくりに向けた好実践事例集の作成	県内保育所の 4 事例を選定して作成 ・恵曇保育所(松江)、三成保育所(奥出雲)、あさり保育所(江津)、みのり保育所(浜田)に取材(7・8月) ⇒H29.3 配布			
⑩SNS 等を活用した情報発信	・ツイッター、フェイスブックによる情報発信 (週 1 回更新中)			
⑪県外保育士養成校における学生と県内保育所との相談会	県西部地域所在の保育所園を対象に開催 ○山口短期大学：6/22 開催 保育所園：6 法人 12 所園 学 生：2 年生 5 人 1 年生 10 人			

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況					内部評価		評価委員による 評価・意見																													
<p>(5) 福祉サービス事業従事者研修の実施 (54 コース)</p> <p>①生涯研修課程 ②経営支援研修 ③テーマ・課題別研修 ④資格支援研修</p>	<table border="1" data-bbox="562 276 1131 507"> <thead> <tr> <th></th> <th>コース数</th> <th>日数</th> <th>受講者数</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>522</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>5</td> <td>15</td> <td>942</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>24</td> <td>66</td> <td>2,576</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>24</td> <td>196</td> <td>2,264</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>57</td> <td>291</td> <td>6,304</td> <td>4.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>前年度比 3 コース増、8 日間増、529 人増</p>						コース数	日数	受講者数	満足度	①	4	14	522	4.5	②	5	15	942	4.0	③	24	66	2,576	4.4	④	24	196	2,264	4.2	計	57	291	6,304	4.3	<p><b>【成果】</b> 福祉・介護人材の確保、定着が課題となる中、経営支援研修の充実により、受講者数増につながった。</p> <p><b>【課題】</b> 事業所におけるキャリアパス体制を支援する研修体系の整備が課題となっていることから、「人事マネジメント研修」「経営マネジメント研修」の区分を充実させる必要がある。</p>	<p>A</p> <p>○評価妥当</p>
	コース数	日数	受講者数	満足度																																	
①	4	14	522	4.5																																	
②	5	15	942	4.0																																	
③	24	66	2,576	4.4																																	
④	24	196	2,264	4.2																																	
計	57	291	6,304	4.3																																	
<p>(6) 事業者の人材育成・定着化に向けた個別支援</p> <p>①職場研修サポート事業</p>	<table border="1" data-bbox="562 759 1249 911"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H27</th> <th>H26</th> <th>H28-27 比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申込件数</td> <td>122</td> <td>137</td> <td>121</td> <td>15 件減 (89.1%)</td> </tr> <tr> <td>決定件数</td> <td>122</td> <td>134</td> <td>116</td> <td>12 件減 (91.0%)</td> </tr> <tr> <td>派遣件数</td> <td>122</td> <td>131</td> <td>110</td> <td>9 件減 (93.1%)</td> </tr> </tbody> </table>						H28	H27	H26	H28-27 比	申込件数	122	137	121	15 件減 (89.1%)	決定件数	122	134	116	12 件減 (91.0%)	派遣件数	122	131	110	9 件減 (93.1%)	<p><b>【成果】</b> 本事業の利用が事業所に浸透した結果、申請後のキャンセルなどのトラブルはなく、また派遣した講師についても高評価を得ることができた。</p> <p><b>【課題】</b> 一部プログラムへの派遣要請が集中するため、依頼する講師(派遣団体)への負担が大きい。依頼の多いプログラムについては集合研修を企画したり、全く派遣要望の無いプログラムの再考をするなどの対応を検討したい。</p>	<p>B</p> <p>○評価妥当</p>										
	H28	H27	H26	H28-27 比																																	
申込件数	122	137	121	15 件減 (89.1%)																																	
決定件数	122	134	116	12 件減 (91.0%)																																	
派遣件数	122	131	110	9 件減 (93.1%)																																	

平成 28 年度事業計画	事業の進捗状況	内部評価		評価委員による 評価・意見
<p>(7) 福祉従事者研修体系 整備事業</p> <p>①研修体系整備に向けたプロジェクト会議</p> <p>②研修履歴管理システムの検討</p>	<p>①事業所におけるキャリアパス体制を支援するため、職務階層に応じた研修体系を構築し、平成 29 年度からの実施に向けて整備した。</p> <p>②法人・事業所における受講履歴管理システムとあわせて本会研修事業への WEB による受講申込みシステムの構築について、運用可能なシステム構築を業者を交えて検討したが、現時点では真に有効なシステムの構築が困難であると判断した。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>法人・事業所におけるキャリアパス体制を視野に入れた研修体系が整備できた。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>平成 29 年度から新しい研修体系のもと研修事業を実施し、法人・事業所における人材確保・定着に真につながるかを検証する必要がある。</p>	B	○評価妥当

[評価] A：順調に進んでいる B：概ね順調に進んでいるが見直す点もある C：あまり順調に進んでいない

## 中期計画評価委員会 委員名簿

※50音順・敬称略

氏名	所属・役職	備考
加川 充浩	島根大学人間科学部福祉社会コース 准教授	委員長
北尾 慶子	島根県社会福祉法人経営者協議会 副会長	
津田 昭美	島根県ことばを育てる親の会 事務局長	
花田 香	NPO法人浜田おやこ劇場 理事長	
半場 祐子	島根県健康福祉部地域福祉課 課長	
森脇 建二	島根県経営者協会 専務理事	
山本 洋輔	山陰中央新報社 論説委員	
横田 学	NPO法人てごねっと石見 理事長	
和田 征大	Meeting Point 代表	
渡部 英二	出雲市社会福祉協議会 会長	

## 委員会の開催状況

日時	会場	内容
平成28年10月27日(火) 13:30~16:00	いきいきプラザ島根 1階共用会議室	1. 第3期中期計画等進捗状況について
平成29年5月12日(金) 13:30~16:00	いきいきプラザ島根 1階共用会議室	1. 平成28年度第3期中期計画等評価について